

第59号

http://www.nisshiren.com/

あ〜す・れっく

日資連界報

日本再生資源事業協同組合連合会
 〒101-0061 千代田区三崎町 2-21-1
 TEL 03 (3263) 9101
 発行人 上岡 克己
 編集人 森岡 伸志
 印刷 株式会社資源新報社



山中湖方面より望む笠雲浮かぶ富士山



「ご挨拶」 信頼される“日資連”に 会長上岡 克己

あけましておめでとう
 ございます。
 会員の皆さまにおかれ
 ましては、ご家族の皆様
 とともに輝かしい新春を
 お迎えになられたことと
 お慶び申し上げます。
 昨年は、循環型社会の
 構築を目指す日資連の諸
 活動に組合員の皆さまに
 協力していただき、絶
 えざる内部改革が必要で
 した。
 これから、日資連を支
 えていくのは優秀な人材
 が必要です。

は格段のご指導ご鞭撻を賜り敬意と感謝を申し上げます。
 さて、日資連の事業の継続、発展を考えた時、教育こそ最重要事項と考
 えていきます。過去にとら
 われず既成概念を捨て、
 全てゼロから考え、日資
 連の永続のためには、絶
 えざる内部改革が必要で
 した。

だと考えています。特に
 青年部には優秀な人材が
 沢山いる。青年部の教育
 に力を入れることで日資
 連は活性化されるものと
 確信しています。

過日、松下幸之助さん
 の「人生と仕事について
 知っておいてほしいこと」
 を読みました。この本は、
 松下幸之助さんの講演・
 講話を集めたものです。
 目で読むのではなく耳で
 聞くことを前提としてい
 るもので、言葉使いも平
 易でとてもわかりやすい
 ものでした。

厳しさの中にも他人への
 優しさを感じ、次世代
 に対する思いの深さに心
 願います。

平成26年の年頭に当た
 り、謹んで新年のお慶び
 を申し上げます。
 関係の皆様には、平素
 より3R政策に深い御理
 解と御協力を賜り、厚く
 御礼申し上げます。



レベルな資源循環を 経済産業省産業技術環境局 リサイクル推進課課長 林 茂

我が国のみならず、世
 界では、ごみ処分場問題
 や、資源の枯渇問題が引
 き続き大きく懸念されて
 います。こうした中、3
 R政策は、資源の有効利
 用によって資源制約と環
 境制約を同時に克服する
 手段として、今後ますます
 重要性が高まっていく
 ことと至ります。我が国は
 その取組がEUからも成
 功例として参考にされる
 など、世界における3R
 先進国となっております。

EUでは2008年に
 廃棄物の枠組みに関する
 EU指令が改正され、2
 020年までに家庭ごみ
 などの50%をリユースと
 する目標が設定されてい
 るなど、よりハイレベル
 な資源効率の循環型社会
 へ移行するための取組が
 進められております。我
 が国は市場メカニズムを
 活用しながら、我が国の
 事情に適した取組を通じ
 引き続き率先して世界に
 リーダシップを発揮し
 ていくことが重要です。

このような考え方を念
 頭に、当省では本年も引
 き続き、3Rに資する新
 たな技術開発・実証支援
 と、各種リサイクル法の
 適切な運用に取り組んで
 まいります。

特に、技術開発・実証
 への支援では、リサイク
 ルの効率性向上に向けた
 課題解決、民間における
 経験・ノウハウの蓄積等
 を図り、この分野のフロ
 ントランナー育成を通じ
 て、リサイクルが経済的
 に成り立つ状況を目指し
 てまいります。

また昨年は、4月に小
 型家電リサイクル制度の
 運用が開始された他、食
 品リサイクル法、家電リ
 サイクル法、容器包装リ
 サイクル法については、
 施行状況の点検が開始さ
 れました。各法律によっ
 てこれまで一定の成果が
 出ているところですが、
 更に3Rを推進するため
 には、実態面では様々な
 課題があると考えられま
 す。

最後にになりましたが、
 これらの推進には環境負
 荷低減を図りながら事業
 展開されている事業者、
 ゴミ処理問題に日々汗を
 流されている自治体の皆
 様をはじめ、国民お一人
 一人のご努力が欠かせ
 ません。我が国の環境保
 全や資源有効利用の成果
 は皆様のご努力の賜物で
 す。当省といたしまして
 は今後とも皆様のご努力
 を後押ししてまいります。

これを後押ししてまいり
 ます。御挨拶とさせていただきます。

新年おめでとうござい
 ます。本年もよろしくお
 願います。



循環ビジネス拡大に期待 衆議院議員 秋元 司 日資連特別顧問

さて、旧年は、アベノ
 ミクス効果においてデフ
 レ脱却、景気回復の兆し
 が見えてきた所でありま
 す。本年は、成長戦略の
 後押しにより、民間投資
 の拡大につなげ、実体経
 済も刺激して参ります。
 そのために、税制改正、
 平成25年補正予算、平成
 26年当初予算等切れ目の
 ない手当をし、消費税率
 アップ時でも消費が落ち
 込まない措置を行って参
 ります。

また、全国で実施され
 ている「古紙」における
 行政回収や、集団回収は
 ルの効率性向上に向けた
 課題解決、民間における
 経験・ノウハウの蓄積等
 を図り、この分野のフロ
 ントランナー育成を通じ
 て、リサイクルが経済的
 に成り立つ状況を目指し
 てまいります。

また、全国で実施され
 ている「古紙」における
 行政回収や、集団回収は
 ルの効率性向上に向けた
 課題解決、民間における
 経験・ノウハウの蓄積等
 を図り、この分野のフロ
 ントランナー育成を通じ
 て、リサイクルが経済的
 に成り立つ状況を目指し
 てまいります。

またされた。特に心に強く響いた言
 葉が「大志を抱いても今
 日の現実を忘れてはなら
 ない」です。大志を抱い
 て、遠くばかりを見つめ
 足元が疎かになる場合が
 あります。大志を抱かず

とも一日一日を着実に積
 み重ねていき、大志を抱
 いた人と同じ結果になる
 こともあるとの示唆には
 目から鱗が落ちました。

大ききことも大切、し
 かし、着実に積み重ねて
 「自他共栄」で明るく住
 みよい社会をつくりだす

さて、業界の皆様のお
 力添えにより資源循環型
 社会の実現に向けて、日々
 前進していることに感謝
 申し上げます。国内外共
 に環境は大きなテーマで
 あり、2020年オリン
 ピック・パラリンピック
 では、日本のこれまで蓄
 積されてきた高い技術を
 もって自然との共生とエ
 ネルギーの効率化に取り
 組んできた姿を情報発信
 していくべきでありましょ
 う。

安定した3R型資源リサ
 イクルの手段であり、こ
 れも、世界に誇るべきシ
 ステムであります。
 しかし、近年古紙の持
 ち去りが各地で頻繁に起
 きていることは、非常に
 残念であり、条例で対応
 できない部分は、国の法
 律も検討すべきであろ
 うと思っております。

好機実感できる年に

全国中小企業団体中央会 会長 鶴田 欣也



新年、明けましておめでとうございます。
我が国経済は長く続いたデフレからの脱却をうかがう局面に入ってきましたが、中小企業は、電気料金、燃料・原材料等の高騰に伴うコスト増により、収益状況が依然として低い水準に止まるなど景気回復の実感が伴わない厳しい状況が続いています。加えて、今年4

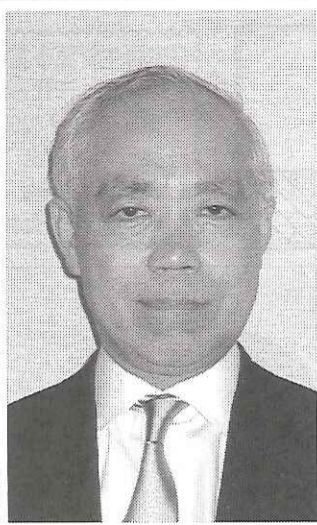
月1日から実施される消費税率の8%への引上げにより、その影響に堪え、乗り越えられるのか先行きが見通せない経営環境にあります。
政府は、昨年9月から「経済の好循環実現に向けた政労使会議」を開催するなど物価の上昇とそれに伴う賃金上昇に向けた検討を行っています。私は、中小企業を代表し

て、この政労使会議に参画し、安倍総理に対して、中小企業の生産性向上に向けた設備投資や地域のインフラづくり等の促進、下請け代金の引上げ等を強く要望するとともに、中央会として、ものづくりに補助金等の施策をフルに活用して、中小企業が賃上げでできる経営状態になるよう全力を尽くしていく旨申し上げました。今年、中小企業が下から上を跳ね返すような組合魂を持って果敢にリスクに挑戦する年にしていくと考えています。私は、昨年の通常総会で3期目の会長職を務めることとなりました。トップセミナーや各ブ

ロック会長会議等における会長同志の交流は、東日本大震災の発生後、絆の力を被災地に届ける際に大いに活かされたことと負っています。間もなく震災発生から3年を迎えますが、被災地の組合と中央会の懸命な努力や山積する今後の課題への対応を思うと、全国中央会の責任の重さを感じ、身の引き締まる思いです。消費税率の引上げへの対応は、国内の消費動向や引上げ税率の転嫁状況を注視しつつ、価格競争力を強化するための経営支援、ものづくり補助金等を活用した生産性の向上支援、設備投資等のための税制及び金融支援

関係業界との連携に努め

(一社)日本鉄リサイクル工業会 会長 影島 一吉



平成二十六年新春を迎えるにあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。旧年中は、我が工業会

の諸活動に対して絶大な御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年はアベノミクス之恩恵なのか、全国的に景気回復の様相を呈し、総じて良い雰囲気の中で年末を迎える事が出来たと存じます。
鉄スクラップに関しても、発生量は期待通りにはいきませんでした。価格面では、景気の先行指標と言われるがごとく、年初比で一万円/トン以上の値上がりとなりました。又、周辺、関連法令としては、小型家電リサイ

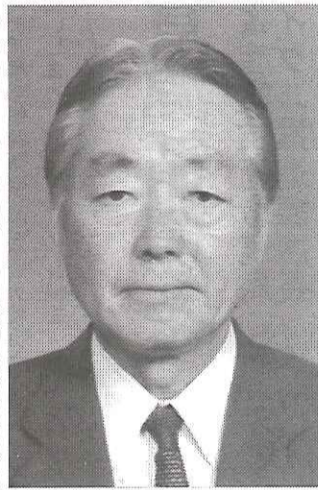
クル法が施行され、それらの関連の業に携わるかどうかは別にして、環境関連法の理解が益々要求される時代になって参りました。
一方で、昨年の出来事として、食品偽装、データ改竄等の不祥事がありました。我が業界としても他山の石として企業行動を律していく必要を強く感じています。我が工業会としては、法令の遵守、並びに労働安全、品質管理の諸施策、活動を通じてより良い業界になる様努力して参り

たいと存じます。
更に、再生資源並びにマテリアルリサイクル全般に視野を広げて、周辺業界との連携に努めて参りたいと考えております。貴組合連合会とは、会員を同じくする店社も数多あり、今後とも良きパートナーとして、再生資源業界全体の為に共に尽力して参りたいと存じます。本年も日本鉄リサイクル工業会の諸活動に引き続きの御理解と御支援をお願い申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

ていくためには、企業間で連携していくことが効果的だと考えています。
電力等エネルギーコスト、事業承継税制や個人保証等、そのほかに大切な政策課題は数多く残されていますが、1人1人震災復興も完了し、組合等連携組織に集う多くの

古紙事業の近代化進め

全国製紙原料商工組合連合会 理事長 栗原 正雄



新年明けましておめでとうございます。
昨年は安倍内閣が、直近の衆参両院選挙で圧勝しねじれ状態を解消して日本の経済の復興を目指した諸政策が打ち出されました。脱デフレ、円高の是正を中心としたアベノミクスと呼ばれる政策が実施されました。
これら政策により紙パルプ産業にも好影響が年

に生じた。古紙の消費量がプラスに転じ、古紙在庫量は、閏年及び10月末の在庫は629ヤード平均で136トンと前年より30%も減少して参りました。夏以降問屋の出荷は国内向けを優先し始めたことにより、一時昨年の輸出量は600万トンを超すと予想されましたが、一転してマインナスになることもあると思われています。昨今是一年を通して古紙需要は強含みに推移したことから、古紙価格は安定価格帯に復元致しました。
今年の3月まではメーカーさんの古紙消費はさ

らに活発に展開されると予想されますので、さらなる古紙の掘り起しをしなければならぬと思われま

広範な青年部活動を

青年部長 武井 大輔



日頃より日資連青年部活動に對しましてご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
昨年の日資連青年部はオリジナルバッジの作成販売及び活動紹介DVDの作成を通じて各地の青年

部員との交流を積極的に進めて参りました。バッジの販売は関係各位の皆様にご理解ご協力をいただき完売となりました。販売益につきましては全額復興支援事業等に使用させていただきます。またDVDにつきましては京都での日資連全国大会で上映、配布をさせていただきます。その成果として9月には札幌市青年部との初の意見交換会も実現いたしました。本年も未加入地域の加入促進活動や西日本ブロックでの交流会の開催等を継続的に実施していきたいと考えております。本年もご指導、ご鞭撻の程よろしく御願ひ申し上げます。

段ボールのリサイクルは次世代の環境作り!!

循環型社会に最適な包装資材として今後ともリサイクルの推進・向上に努めます。

段ボールリサイクル協議会

リサイクルマークの普及促進中!!

資料問い合わせは事務局へ
詳細については段ボールリサイクル協議会のホームページ
(http://www.danrikyo.jp)で閲覧できます

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館
(全国段ボール工業組合連合会内)
TEL03-3248-4853 FAX03-5550-2101

少しでも再生紙復権の年に なりませうように

古紙ネット代表 中村 正子



最近新聞もほとんど掲載しませんが、福島第一原発事故汚染水問題の解決は未だ遠く、被災しては3年がたつというのに、被災地の復興もままならないのが現状です。にもかかわらず、その復興予算を目的外に平気で流用する省庁や行政が後をたないという報道がたえません。こともあろうに、ベトナムなどへの原発輸出のための現地調査費にも復興予算が使われていると聞くに及び、

その理不尽さに唖然として、古紙リサイクルに関する情報では、昨秋、環境省のグリーン購入法「再生紙の基準の見直し」で、同法ではそれまでなかった「古紙」の定義がなされ、パブリックコメントの募集がありました。私は古紙を定義することが何を意味するのかよくわからなかったのですが、取材を受けた「週刊ダイヤモンド」(2013年10月5日号)は「この定義は、環境問題を隠

れ蓑にして外資系の製紙会社を排除するのが目的ではないか」と指摘しています。明確には知らなかったのですが、コピー用紙の輸入比率は40%を超え、2012年には国内メーカーの牙城だった再生紙コピー用紙まで本格的に輸入され始めたそうです。日本製紙連合会がまとめた提案にそった「古紙の定義」の真の目的は、価格競争力では太刀打ちできない日本の製紙メーカーが海外勢を排除すること

を目指したものでないかというわけです。古紙ネットが活動を始めた20年前から、私たちは古紙リサイクルについて、国内循環を土台に考えてきました。食糧などで安全・安心を考えれば、「地産・地消」となるように、古紙も地産・地消が土台であると。そのためには「できるだけ古紙を使った再生紙の普及啓発」と、教科書への再生紙導入を文部大臣に働きかけ、古紙のトレレットペーパーの利用キャンペーンなどを行ったのでした。社会の環境問題への関心が高まるにつれ、ドイツなどだけでなく、わが国でも「再生紙」は環境に良い製品の代表になっ

ていきました。再生紙のブランド力を高めたのは、グリーン購入に努めた国や自治体であり、少々高くても購入したユーザー・消費者であり、そうした社会の価値観だったのでした。その再生紙ブランドを地に落としたのは、2008年の製紙メーカーによる古紙偽装の発覚でした。私たちが信じていた「再生紙」には、古紙がまったく入っていない量たり、表示より少ない量しか古紙が配合されていなかったという圧倒的な事実の前に、再生紙ブランドはあえなく崩壊したのです。この事実と同時に、再生紙ブランドをつくったのが製紙メーカーではなかったことを物語っています。

その5年が過ぎましたが、私には、製紙メーカーが再生紙を社会が信じていることができるブランドとして復権させるための懸命の努力をしてきたとは、とうてい思えません。まず、行うべきは、再生紙が偽装でないことを証明するために「古紙配合率の管理」を製紙メーカーがどのように行っているかという事実を広く公表することです。例えば、王子グループの「企業行動報告書2013」では、「2012年度はお客様の要望により立会検査が15件、古紙配合率を証明する文書提出が1900件あった」と報告しています。

行うべきは信頼を取り戻すための地道な努力の積み重ねであり、そうした取り組みを広く社会に周知徹底させていくことではないでしょうか。そうした意味で「古紙の定義」よりも先に「古紙の定義」が先に行わなければならないと思われてなりません。

Rマークや各種リサイクルマークが消え、グリーン購入法の紙の選考基準がわかりにくい総合評価方式になって以降、一般に流通する紙製品の古紙配合率などがまったくわからなくなりました。紙・再生紙を愛する者として、2014年が少しでも再生紙の復権につながる年でありませうようにと願っています。

3カ国から24名が受講

製紙連合会主催の古紙回収研修会

日本製紙連合会主催の「タイ・ベトナム・マレーシアを対象とする古紙回収システム研修会」が、昨年に引き続き昨年12月5日から13日にかけて、一般財団法人海外産業人材育成協会東京研修センターに於いて開催された。本研修会は、古紙の回収・分別の技術取得及びアジア地域の古紙輸出先の分散化を図ることを目的として古紙回収システムや製紙企業の古紙調達・利用に関する講義に加え、製紙工場や古紙ヤードの

見学・意見交換会などで構成されている。受講者は、タイから9名、ベトナムから9名、マレーシアから6名の合計24名。日資連からは、6日に「回収事業の歴史と現状」と題して業務委員会副委員長の高野昌明氏が講演を行い、13日の意見交換会には業務委員会委員長の高野昌明氏が参加した。

6日の武田氏の講義では、日本の古紙回収の歴史から現在の回収形態、発生状況・今後の課題等が紹介された。13日の意見交換会には受講者24名と、日本側から高野氏ら3名が参加した。高野氏は、2時間半に渡り、3カ国それぞれから古紙回収の課題とその改善策についての報告が行われた。なお、各国の発表は以下の通り。

①マレーシア：言語が多岐にわたる、住民への普及啓発が難しい。また古紙の運用が各企業に任されているので、今後は業界共通のスタンダード、そして政策課題にリ

12月6日の武田氏の講演風景。熱心な質疑応答が予定時刻を過ぎても続けられた。

12月13日の意見交換会には高野氏が参加し、回収システムについて説明を行った。

日資連今後の予定	
◎理事会	平成26年3月15日(土) 13時～
	場所: 日資連事務所
◎各委員会	
●組織運営強化委員会	平成26年2月15日(土) 13時～
●第66回認定審査委員会	平成26年2月15日(土) 15時～

～全国大会 千葉大会のお知らせ～
6月15日(日)、千葉市の「京成ホテルミラマーレ」において、第42回日資連全国大会・千葉大会を開催いたします。組合員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席頂きますようお願い申し上げます。詳細につきましては、後日改めてご案内を組合にお送り致します。

神保佑君(小5)他に金賞

古紙センターのクリサイクルコンテスト

昨年12月14日、公益財団法人古紙再生促進センター(岩瀬広徳代表理事)が平成24年度より実施している「全国小中学校紙リサイクルコンテスト」において、今年度の金賞受賞者に対する表彰式が、千代田区にあるグランドパレスホテルにて開催された。岩瀬代表理事の挨拶に続き、金賞受賞者に対し、表彰状と記念品が授与された。

日資連からは上岡克己会長、吉浦高志専務理事、高野昌明業務委員長が出席。(公財)古紙再生促進センターのマスケット

▼ポスター小学生部門 鹿島拓海君(青森県・八戸市小中野小学校6年「地球のためにリサイクル」)▼ポスター中学生部門 日向井麻莉さん(宮崎県・県立宮崎西高等学校2年「資源



金賞受賞者ご家族と古紙センター役員

キャラ「カミリイママ」も登場し、表彰式に花を添え、終始和やかに授賞式は進行した。

なお、各部門の金賞受賞者は次の通り。

▼作文小学生部門 神保佑君(群馬県・大泉町立北小学校5年「リサイクルと資源」)

▼作文中学生部門 宮元菜那さん(熊本県・学校法人鎮西学園真和中学校2年「命ある資源」)



作文金賞受賞の神保君ご家族と同郷の上岡会長が記念写真



ポスター金賞作品小学生部門(左)と中学生部門(右)

河内保男相談役(第3代会長)

平成6年6月〜平成8年5月まで日資連会長を務められた河内保男相談役(東京都)が1月13日に逝去されました。享年85歳。謹んでお悔やみ申し上げます。

河内氏は昭和23年に河内商店を創業、昭和27年に(株)河内商店の代表取締役となり、以来鉄・非鉄の重責を担われました。

平成4年にはリサイクル推進協議会表彰、平成8年に東京都知事表彰、平成13年には勲五等瑞宝章を授与されました。



編集後記

痩せましたか？
ひと回り小さくなったような気がしますが、どうしましたか、と声をかけられる。その度に、病気を治すために減量中です、と答える。

昨年の8月に88kgあった体重を、12月末までに73kgまで落としました。15kg減ると着るものに困る。シャツは3LからLサイズに。ズボンもウエスト105cmから85cmへ。スーツもB/E体からA/B体へ。約4か月かけて少しずつ変化していったので、その度に買い替えては、おかげでかになっりました。

私の病気は糖尿病だ。昨年の定期健康診断で、再検査と云われ、病院へ行く。結果を見た先生が「入院するレベルの数値です。」と云う。空腹時血糖値242、ヘモグロビンA1C11.4、かなり悪い数字です。糖尿病です、と。

その日からアルコール禁止、食事は1日1600キロカロリーとなった。「食事管理はしっかりやります」と、妻が宣言したので、検査入院は辛うじて免れた。

最初の40日間で約5kg落とし、次の40日で4kg落とし。体重が落ちると共に、血糖値も11.1、88へ。ヘモグロビンA1Cも8.5、6.9と良くなった。

この時点で、最初に目標として示された数値は、ほぼクリア。12月の検査では、ヘモグロビンA1Cが5.9となり、薬を飲んでいるとは云え、健康な人と同じレベルの数値となった。

今年の正月、ビールを飲んだ。この数値ならばよいです、と妻の許可が出たのだ。ただし毎日だめ、カロリーを考えながら自己管理する、という条件で。

昨年8月19日の禁酒以来久しぶりに飲むビール。夏の暑い時に、誘惑に駆られても、飲みたいのをじっと我慢していた本物のビールだ。

一気に飲み干した後、私は、この一杯のビールのために一生懸命減量してきたのだ、と思った。この病気は悪化すると動脈硬化や心筋梗塞、脳梗塞をおこす。今は良い数値が出ているが、油断することなく、自己管理することが大切だ。ここまで来たら、あと3kg減量したい。

もう、デブには戻らない。

(広報委員 守屋)

あ〜す・れっくに広告を掲載しませんか？
 全国組合員約2300社に配布される、日資連会報「あ〜す・れっく」。本誌掲載にする会社の広告を募集しています。全国の組合員に御社を知ってもらおうチャンスです！
 ★広告掲載料：1ページ 30万円
 1/2ページ 15万円(予定価格) / 1回あたり
 事務局までお問い合わせください。(TEL:03-3263-9101)

栃木県リサイクル協同組合連合会 会長 星本 昭次 〒320-0816 栃木県宇都宮市天神 2-7-18 TEL 028(634)5930・FAX 028(666)8513	群馬県再生資源事業協同組合連合会 会長 上岡 克己 〒371-0857 群馬県前橋市高井町 1-26-3 TEL 0272(53)7291・FAX 0272(54)6221	埼玉県再生資源事業協同組合 理事長 福田 寛榮 〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 2-156-1 エクセルハイム103 TEL 048(607)7401・FAX 048(607)7402
千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会 会長 飯田 俊夫 〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-22-6 富士ビル 5階A号室 TEL 043(227)8273・FAX 043(227)2033	東京都資源回収事業協同組合 理事長 吉浦 高志 〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-21-1 TEL 03(3263)3676・FAX 03(3263)3679	神奈川県資源回収商業協同組合 理事長 藤田 和秀 〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-40-17 モンテベルデ 横浜 311号室 TEL 045(313)6100・FAX 045(313)6161
奈良県資源回収事業協同組合 理事長 森田 元嗣 〒635-0095 奈良県大和高田市大中 106-2 経済会館 6階 TEL 0745(23)2266・FAX 0745(23)2285	新宿区リサイクル事業協同組合 理事長 佐藤 一郎 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-12 (株)小池商店 本社内 TEL 03(5363)3196・FAX 03(5336)3197	日本再生資源事業協同組合連合会 広告掲載のお願い！ 本紙への掲載広告を募集しています。詳しくは事務局にお尋ねください。